その日の表情
学卒集団就職

↑「君もシツカリやれよ！」「またいつの日か逢おうよ……」明るい菜の花畠の路で、お互いの胸も心なしか感激にふるえる……★

懐しい学友ともいよいよお別れ……色デープが棧橋と船を美しく彩る。先生の瞳も「元気でナ」と↓励している……★

↑では行つてまいります……先祖のお墓まいりをすませて……★

↓村の人たちが、みんなで送つてくれた…★

学卒者の県外就職率は、殆んど100%に近い。受入側では、毎年評判がよいという引卒者の話である

小雨ふる本渡港に歓声がわき上る。行くもの、送るものの別離の↓一瞬。希望の人たちを乗せて船は次第に小さくなつて行く。

学窓を巣立つて、実社会へ雄飛する学卒者は県内の場合毎年順調にふるさとを出発しています。今年に入ってからすでに五、〇〇〇名もの県外就職が行われましたが、就職先は、主に阪神か関西方面。このスナップは、去る中旬、天草から出発した一団の明るい表情です。

現地ルポ

豊かな暮しのために……

新日窒水俣工場の家族計画をみる

「生めよ殖やせよ」とは、かつて私たちが戦時に経験した流行語であり、わが子を一人でも多くお国に捧げさせようとする苦々しい国策の合言葉でもあつたようです。

平和が訪れ、いま私たちには、新憲法の下で文化生活への必然的な要求が保障され、その昂まりは年とともに多くの形を生んで、明るい活動をすゝめて来つゝあります。

文化生活――一口に云つて、これはやはり、明るく豊かなものでなければならないと思いますが、次に紹介するのは、新日窒水俣工場が「家族計画」によつて職員の文化生活を築こうとする活動のあらましです。

労働組合の協力が……

水俣駅から鹿児島本線一つ隔てた真向いの広大な敷地に、銀色にかがやくダイナミックな機械設備がそゝり立っています。門を入ってその中を歩いていると、どこからともなく機械の唸る音がきこえ、ちらほらと人間の姿がそれらの前で微小に動くのが目につきます。

応接間で待っていますと、厚生課の係長である緒方一浩さんが姿を見せました。のて、さっそく、その家族計画がどのような内容をもった活動であるかを訊ねてみますと、

「この活動が、とくにあらたまった新生活運動という大目標を掲げて実施されたのではなく、会社側としては、少しでも職員の家庭生活を心身共に健康な明るい状態に引きあげてゆきたいと、極めて自然な発想から生れたことなんです。そこで、この案を厚生課の役割として職員や家族の方々に働きかけましたところ、全く異論もなく、しかも普段労資の斗争相手である労働組合までがたいへん協力的でしたので、まゝ順調にこの一年半をやってきたわけです。」

と前おきして、だいたい次のようなことをお話していただきました。

高かった家族の平均数

まず、この活動のそもそもの動機について厚生課の考えかたを訊いてみますと

「うちには職員が三、五〇〇人居りますが、そのうち家族を持っているのが二、九〇〇人なんです。ところがその職員一人当りの家族の平均数が三・四人で、全国炭礦労務者の家族平均数三人を完全に上廻っていたんですよ。

で、これではいけない、何とかしなければと考えたのがことの起りなんですがこのようなことゝは別に、家族計画をすゝめることは、いろんな意味でいゝことですね。さし当って、職員の労働条件が良くなるっていうことですよ。家族が多ければそれだけ家庭の中に病気が出るし事故もふえるわけでしょう。そんな家庭を抱えて職員自身が安心して職場で働くことは精神的な意味でなかなかむづかしいことで、自然と仕事の能率にも影響をもってくることなんです。家庭が明るければ工場全体の環境も明るいし、けっきょく、個人の生活が精神的にも肉体的にも、また経済的にも少しでもゆとりがでてきますと、職場で働く職員の実績が向上してくるのも道理ですから、云わば、この家族計画の活動は〝すべてを満足させる運動〟として、大きく評価されていゝのぢゃないかと考えているところです。」

と緒方さんの口調は、この活動がたいへん合理的な目的をもっていることを強調された。

家族計画……端的に云って受胎調節ということがらは、夫婦生活の中ではとくにデリケートな意味をもちながら、これが双方の協力ではじめてその目的が達せられる、というのですから、実際に始めてみると、そうは簡単にいかないと思います。そこで、その活動がどのような組織によって動いているかをすこしづゝ掘り下げてゆきましょう。

家庭会が母体となつて

日窒水俣工場には「水光社」という生活協同組合があります。この組合には組合員で組織する家庭会というのがあって二三〇〇世帯の奥さんたちがこの活動の主体となっているのです。もともとお茶生花、料理……と云ったたぐいの趣味の会が、この活動を始めてからは一躍充実さを加えたことは家庭会の発展のために大へんよかったことです。

ところで、この家庭会は二十から三十位の世帯を一グループにして、だいたい一〇〇地区に分けられ、それぞれに地区委員が決められて、この人たちを通して受胎調節に必要な薬品や器具などが委託販売されているわけです。そして、その